



新治小学校だより

令和4年度

7月号

学校教育目標：ひびく心 はすむ体 見つめる目

～新治のよさを持続して活かしながら、

よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和4年6月30日

ワクワクする学び（主体的な学び）

校長 川島 広子

今年は例年になく早い梅雨明けとなり、それと同時に猛暑日が続く、学校活動にも少なからず影響が出ています。

さて、学校だより5月号で新治の町に咲く、カントウタンポポとセイヨウタンポポの話を書きました。この話を朝会でも子どもたちに紹介し、実際に新治小学校付近でカントウタンポポが咲いている場所を伝えたところ、タンポポを摘んで「校長先生、これはどっちかな？」とか「うちの近くにもカントウタンポポが咲いてたよ～」と教えてくれる子どもがたくさんいました。果ては、私のことを植物博士と思ったのか、この朝会後の校長室は子どもたちが摘んでくれた、たんぽぽや四つ葉のクローバーや野の花でとても賑やかになりました。

子どもにとって単なる「たんぽぽ」だった1つの植物が、ほんの少しのきっかけで自分にとって身近な存在となり、「これはどっちのタンポポだろう」という知りたいワクワクに変わり、さらにそれが知識となって積み重なっていきました。身近な興味関心や、自分にとって役立つこと、そうだったのかと感ずることから、もっと知りたいとワクワクする気持ちが沸き、自ら学ぶことに繋がる。これこそが学校で今まさに目指している「主体的な学び」です。

コロナ禍で昨年、一昨年と実施できなかった社会科見学等の校外学習が5月から少しずつ実施できるようになりました。校外学習は、机の上では学べない実体験に基づいた「主体的な学び」ができる大切な機会です。その中の1つ、5年生の日産自動車追浜工場見学に私も引率で一緒に行ってきました。

自動車の製造過程の説明を聞きながら、子どもたちは夢中でメモを取り、紙に書ききれないという子どもが続出しました。今までは、「車」という形として見てきたものが、この部品とこの部品が繋がって、このような工程で作られている製品なのだと知り、また一方で、その工場で働く人々を間近に見ることで、「仕事」という視点からも自動車製造に携わる人々のことを学び、子どもたちのもっと知りたいという意欲が掻き立てられていたようです。側にも子どもたちのワクワクがダイレクトに伝わり「楽しかった～！」の声をたくさん聞くことができました。

実体験に基づいたワクワクする学びは、保護者や地域の皆様にご協力いただいている田植えやサツマイモ植え、梅田川生き物観察会などで、さらに次世代を担う子どもたちの力となる学習につながられています。今後とも皆様には、子どもたちの学びへのご協力をよろしくお願いいたします。



【お知らせ】

※新治小学校ホームページ内の「にいほる日記」を随時アップしています。ぜひ、ご覧ください。